

NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No.
31
March, 2019

「本館丸ごと博物館」ツアーを開催しました

キャンパス移転と資料の移動に伴い、旧工学部本館に各分野の資料を収蔵展示する「開示室」を新たに整備しました。昨年12月には、これらの開示室を教員の解説とともに巡る「本館丸ごと博物館」ツアーを開催し、400名以上の皆様にご参加頂きました。開示室は常設展示ではありませんが、4月以降も展示機能を活かして活動していきます。ご期待ください。

総合研究博物館第8代館長 緒方 一夫





2018年度公開展示

ありがとう箱崎キャンパス

— 学術遺産と学者たち —

岩永 省三 一次資料研究系・教授

2018年度の公開展示は、箱崎キャンパスから全部局が移転し終わるのを記念し、『ありがとう箱崎キャンパス—学術遺産と学者たち—』を総合テーマとし、箱崎キャンパスで展開された教育・研究活動と学術資料を、その形成に関わった学者たちの活動などととも振り返りました。

本年度の特殊事情として、箱崎キャンパスで取り壊される建物に収蔵されていた当館所蔵標本類の旧工学部本館建物等への移転作業が終了し、その後の整備作業の目途が立つまで大規模な展示が行えないため、展示は学内展示のみとし、次の3本立てとしました。

A. 旧工学部本館建物3階の博物館常設展示室・企画展示コーナーで、小規模な展示を数か月ごとにテーマを変えて実施する。

B. 旧工学部本館建物への資料移転と整理終了後、同建物内に、資料分野ごとに「開示室」を整備し、『本館丸ごと博物館』と題して公開する。当館と大学文書館の共催とする。

C. 伊都キャンパスの椎木講堂ギャラリー・展示コーナーで、九大草創期の箱崎地区・病院地区キャンパスで展開された教育・研究活動と学術遺産を、その形成に関わった学者たちの活動と共に振り返る。当館と大学文書館の共催とする。

Aのうち、3月22日～5月6日の『戦前の福岡における博物研究の興隆と九州大学』、5月22日～9月28日の『防塁再発見』、およびCについてはニュース30号でご紹介しました。

ここではBについて詳しくご紹介します。Bの主旨は、「九州

大学は、箱崎キャンパスの全学部・大学院が伊都キャンパスへ移転完了しましたが、総合研究博物館と大学文書館は、あとしばらく箱崎キャンパスに留まり、様々な活動を行っています。このたびの移転で、箱崎キャンパス内に分散していた学術標本を、同キャンパス保存地区内の旧工学部本館建物に集合させ、保管することとなりました。これを機に、各分野ごとの収蔵展示室=『開示室』を整備いたしましたので、リニューアル特別公開いたします。重厚な建物の趣ある部屋を廻りながら、様々な学術標本の『森』をお楽しみください。」としました。

開催日は2018年12月の1・2・8・9・15・16・22・23日の土日曜日で、各日ともに、10:00～11:30、13:00～14:30、15:30～17:00の3回、館内ツアーを開催し、当館職員が解説しました。ツアー以外の時間帯は、常設展示室をご覧くださいました。今回ツアーでご覧頂いた各室をご紹介します。

「壁画の会議室」(4F)は戦前に工学部会議室として使われた豪華な部屋で、家具・調度品・内装が当初の姿をとどめ、青山熊治筆の巨大な油絵が掲げられています(写真①)。

「動物骨格標本開示室」(3F)は、戦前に医学部解剖学教室が海外から比較解剖学の授業用に購入したもので、魚類から霊長類に至る脊椎動物の骨格標本が揃っています(写真②・③)。

「動物剥製標本開示室」(3F)は、伊都キャンパスに生息していた動物の剥製を主とし、農学部畜産学教室からの移

管品や旧箱崎水族館のニホンアザラシなどがあります(写真④)。

「工学部(採鉱学・冶金学科)列品室」(3F)は、工学部からの移管品で、鉱物・鉱石・石炭、炭鉱関係の器具・道具・模型などがあり、戦艦用無煙炭など珍品もあります。

「工学系資料開示室」(3F)は、床に旧第一分館の木煉瓦を敷き歴史的什器を陳列棚とし、炭鉱関係道具や旧知能機械工場での収集品、初期のX線管などがあります(写真⑤)。

「昆虫資料開示室」(2F)は、歴史的什器を陳列棚とし、烏山標本から選んだ大型や小型の美麗種を美的に陳列し、プロが使う昆虫採集道具や標本作成道具もあります(写真⑥)。

「化石閲覧開示室」(2F)は未完成であったため、前田教授の研究室(3F)内のアンモナイト化石を特別公開。世界各地からの採集品で、現在研究中の標本ばかり(写真⑦)。

「高壮吉鉱物標本開示室」(2F)は、工学部採鉱学教室の高壮吉教授の収集品で、日本三大鉱物標本として国際的にも有名。大型で豪華な結晶鉱物が多いのが特徴です(写真⑧)。

「植物資料開示室」(2F)は、歴史的什器を陳列棚とし、戦前の各種の植物標本などを紹介します。南洋植物の乾燥標本や今回の移転過程で収集された教育掛図もあります(写真⑨)。

「人骨資料開示室」(2F)は、医学部解剖学教室の金岡丈夫教授の日本人起源論、永井昌文教授の渡来系形質拡散の地域差研究に用いられた古人骨です。

今回のツアーはご好評をいただいたため、今後も年に数回実施いたします。



「ありがとう箱崎キャンパス」シリーズ展示

九州大学の鉱物鉱石

—我が国の鉱山開発との関わり—

中西 哲也 分析技術開発系・准教授

期 間 ● 2018年12月1日(土)～2019年3月29日(金)
場 所 ● 総合研究博物館常設展示室



九州大学を代表する鉱物・鉱石コレクションの一つである、工学部列品室標本の中から、日本の鉱山開発をテーマに、鉱石標本のほか関連資料を紹介しています。

採鉱学科初代教授の岡田陽一先生が蒐集した、江戸時代の鉱山学に関する資料として「雲根志」、「山相図」。戦後、木下亀城教授が執筆した「日本原色鉱石図鑑」のほか、製鉄関連資料として、官営八幡製鐵所で最初に使われた中国大冶鉄山産の鉄鉱石や、鉄資源に乏しい日本が調査を進めていた東南アジア産の鉄鉱石標本。非鉄金属鉱山の鉱石としては、別子銅山、足尾銅山、荒川銅山、菱刈鉱山(金)、瑞寶金山(台湾)、石見銀山、対州鉱山(鉛)、神岡鉱山(鉛・亜鉛)、市ノ川鉱山(アンチモン)などを展示。

九大から多くの研究者、学生が訪れた別子銅山については、大正四年の坑道平面図や載面図、1934年に学生が坑内調査をした際の測量図を展示。このほか帝国大学時代の学生が製図実習で描いた、削岩機やトロッコの図面を紹介しています。



日本アートマネジメント学会九州部会研究会

五感で知る 九州大学総合研究博物館

— バックヤードツアー & SPレコードコンサート —

古賀 弥生 九州産業大学 地域共創学部・教授

平成30年11月18日(日)、日本アートマネジメント学会九州部会研究会「五感で知る 九州大学総合研究博物館 バックヤードツアー & SPレコードコンサート」を開催した。この企画は同年3月の研究発表会における博物館専門研究員・大久保真利子氏による研究報告が発端であった。大久保専門研究員の報告は博物館の「田村コレクション」の一部、SPレコードに関するもので「実際に蓄音機で聴いてみたい」との声が部会員からあがったのである。

当日は一般も含め20名の参加を得て、三島美佐子教授による解説を交えたバックヤードツアー、そして大久保研究員のレクチャーによる



①



SPレコードコンサートを堪能することができた。参加者からは貴重な収藏品等に対する感嘆の声が聞かれた。

アートマネジメントの観点からも、博物館及び収藏品は活用の工夫次第で地域活性化にもつながる可能性を秘めた価値の高いものであることを再確認する機会となった研究会であった。

① 大久保専門研究員によるレクチャーの様子

COLUMN①

『中国教育報』にインタビュー記事が掲載！

白土 悟 専門研究員



①

中国教育部直属の中国教育報刊社の日刊紙『中国教育報』は中央政府唯一の教育専門の新聞である。国家の教育方針や政策、法律や法規、地方の教育動向、教育改革や教育問題などを、主に省政府教育行政部門、学校教員や学生に伝えている。

今年、『中国教育報』(2019年1月4日)に私のインタビュー記事「為留学生教育

尽一扮力」が掲載された。拙著『現代中国の留学政策—国家発展戦略モデルの分析』(2011年)の刊行に関連して、なぜ中国に関心を持ったのか、なぜ中国留学生研究を始めたのか、拙著の内容、中国人留学生へのアドバイス等々を尋ねられ答えたものである。

① 2015年9月「西安・福岡県留学生会」発会式にて

研究紹介

ニホンアシカの剥製が当館に

丸山 宗利 一次資料研究系・准教授



ニホンアシカ *Zalophus japonicus* はすでに絶滅した動物である。過去には東アジアに広く生息していたが、1970年代にこの世から姿を消してしまった。現存する標本の数は世界にわずか10数頭とされている。今回、本種の貴重な剥製標本が九州大学で見つかり、当館に保管されることとなった。

最近取り壊されてしまったが、農学部水産増殖学研究室（魚類研究室）の収蔵庫が箱崎キャンパスの北端付近にあった。そこに「昔、箱崎水族館からもらったアシカの剥製がある」というのは、以前より聞いていたが、昨年の夏、取り壊しを前にそれを当館で引き取ることとなった。アシカと聞き、「もしやこれはニホンアシカでは？」とも思ったが、すぐに確認するすべがなかった。

しかし、引き取ったという噂を聞いて、箱崎水族館創業者の曾孫にあたる花田典子さんが剥製の清掃作業の名乗りを上げてくださった。そして、花田さんのお話を聞き、当時の証拠の数々により、直ちにこの個体がニホンアシカであることが明らかとなった。

記録によると、箱崎水族館



では、開館の1910年3月24日から閉館の1935年4月21日までアシカが飼育されていたという。そして、開館翌日の福岡日日新聞に本個体（体重や写真から推測）に関して「朝鮮産で体重八十斤位三ヵ年以上飼養されて居たもので能く人に馴れ鯛を持って興る前に吼へと云へば吼へ廻れと輪を書き示すと桶の水中を泳いで廻る…」との記述がある。そして本個体である可能性が高いアシカの絵葉書も残存している（当時はオットセイと混同）。



水族館の閉館後、死んだ個体の剥製はしばらく花田さんのご実家にあったようで、花田さんのご母堂が、ご結婚の頃、自宅にアシカの剥製があったことをご記憶のことである。アシカは少なくとも2頭飼育されており、双方とも死後に剥製となり、うち1頭は箱崎小学校に寄贈されたそうだが、のちに花田さんが訪れたときには、すでに処分されてしまっていたようだ。残る1頭が本剥製にあたるが、本学に来た経緯や時期などは不明である。

いずれにしても、この剥製は非常に貴重なものであり、九州大学が収蔵する自然史資料の底知れない可能性を示すものとも言える。空調のない環境に保存されていたために、やや傷みがあるが、今後はDNAの分析などの研究に供するとともに、本個体の由来についても調査していきたい。

本個体を当館に収蔵することを快諾くださった水産増殖学研究室の望岡典隆先生、そして剥製をきれいにして下さい、貴重な情報をご提供いただいた花田典子さんにお礼申し上げます。

- ① 清掃を終え、当館に収蔵展示中の標本
- ② 箱崎水族館（正面）の絵葉書
- ③ 本剥製とおもわれる個体の生時の絵葉書

COLUMN②

「砂丘に眠る弥生人」展への協力

国立科学博物館で開催された企画展「砂丘に眠る弥生人—山口県土井ヶ浜遺跡の半世紀—」に協力しました。この展示は、日本人起源論争において重要な役割を果たした土井ヶ浜遺跡を中心に、弥生時代人骨をめぐるこれまでの研究を紹介したものです。

当館からは、約40体の古人骨のほか、丹塗土器や細形銅剣、永井昌文先生

による貝輪の製作実験資料などを貸し出しました。これだけ沢山の弥生人骨が並ぶのは、1970年の「弥生人展」（朝日新聞社主催）以来では、とのこと。本館所蔵の資料たちを、多くの皆様に見てもらいたい機会になりました。

（文章：谷澤）

- ① 企画展示室エントランスの様子

担当 ● 岩永 省三 一次資料研究系・教授
米元 史織 開示研究系・助教
谷澤 亜里 開示研究系・助教





九州大学 クラウドファンディング

本年度から始まった、Readyforと提携した九州大学クラウドファンディング。当館から立ち上げた二つのプロジェクトは、皆様のご支援により、どちらもめでたく成立となりました。担当教員からのお礼をお伝えします。



“オール・アンモナイト”プロジェクト

前田 晴良 分析技術開発系・教授

▶「九州大学オール・アンモナイトプロジェクト」にご協力下さり、誠にありがとうございました。予想を上回る総額2,435,000円のご支援を賜り、感謝感激です。この2月をもちまして無事にプロジェクトを終了しました。博物館公開日には、世界18ヶ国から集めたアンモナイト化石約100点を化石閲覧開示室にて公開します。また、サイエンス・ツアーは随時開催します。今後も標本収集へのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「九州大学オール・アンモナイト」プロジェクトを支援して下さった皆様 (開示希望の方のみ掲載、日本語索引順、敬称略)

麻生 愛	川原 健	田尻 幸子	前田 智秀
伊佐 道雄	木村 孝一	土屋 健	前田 陽子
石田 多絵	工藤 好弘	寺尾 幹夫	松岡 鍊三
石田 正俊	(株)クリエイシス代表取締役	東野整骨院・東野 重徳	松元 宏彰
石田 礼輔	谷本 孝浩	中村 広基	丸山 啓志
石橋 隆	黒須 弘美	西澤 邦輔	南 順介
一田 昌利	Kentaro Kuwabara	西澤 保彦	吉田 拓真
一田 昌宏	今野 和美	西田 涼香	吉野 彰
岩井 寿夫・英沙	始祖鳥堂書店	畠中 千明・和華	Yosuke N.
eito.yuki.hiroki	鈴木 良枝	濱田 康史	ほか94名の方々
Ozawa Hirokazu	高尾 将矢	林 常喜	
笠原 勉	高栗 祐司	日高 裕香	
片柳 美幸	高田 裕幸	弘瀬 憲二	
亀井 達夫	高橋 宏樹	百科編集部	合計145名

以上の皆様・機関に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

COLUMN③

「サイエンス ZERO」に出演しました

前田 晴良 分析技術開発系・教授

2019年1月13日にNHK教育テレビで放送された“サイエンスZERO”でアンモナイトについて熱く語りました。「まず化石調査の現場を撮りたい」というスタッフのご希望で11月にジュラ紀の化石産地に現地ロケに向きました。タレント

の井上咲楽さん(ホリプロ)が直径約10cmの超弩級の標本(写真)を掘り当てた時には、思わず全員が絶叫しました。持っている人は違いますね。脱帽です。

12月にお台場の科学未来館で公開収録されましたが、会場に持ち

込んだ実物のアンモナイト化石と、MCの小島瑠璃子さんの絶妙な返しのおかげで何とか乗り切りました。それにしては会場の小学生から飛んでくる質問は鋭いですね。

なお井上咲楽さんが採集したアンモナイトを博物館で展示しています。

井上咲楽さんが採集したアンモナイト化石▶





歴史的な木製学校家具を救え! 九大什器保全活用プロジェクト

三島 美佐子 開示研究系・准教授

▶ 今回は、最終移転で更新となった多量の歴史的木製家具を救済し、移転後の施設閉鎖期限までに搬出するという、空間的にも時間的にもタイトな期限がある、まさに綱渡りのプロジェクトでした。それをなんとか乗り切ることが出来たのも、皆さんからの力強いご支援と暖かいご声援のお陰です。引き続き、本事業と歴史的家具を見守り続けていただければ幸いです。本当にありがとうございました!

プロジェクトメンバー一同より

九大什器保全活用プロジェクトを支援して下さった皆様 (開示希望の方のみ掲載、ニックネーム、敬称略、順不同)

22forest	marumaru	おて	ろんじん	西脇 敦子
aki	Mas	かおそい	安部 義弘	青木 香奈
AMAKUSA	material market	カオルコ	有馬 学	石川 義宗
Bun8	matumoto	かよこ	伊原 久裕	石佛 敦子
chizuko31	Meso	さんちゃん	伊豆	川口 大輔
COOKING-PAPA	mymmrmt	クレゴ	宇内 千晴	川本 重雄
cozyforest	n-umeda	ゲール	益岡 了	川面 賢
dustfinger	Nao Nao	こちかめ	横田 圭蔵	前田 晴良
febuare0228	O.H	サカグチ らく コウイチ	岡 幸江	増田 ひろみ
Fish Akiko	okamotom	ささやま	加藤 耕一	大野 陽子
fuku	Osamu Matsuda	しー	株式会社ロータリービル	大矢 幸世
gon	Oya Kazuyo	ジャバ	鬼本 佳代子	谷本 尚子
goto	Randall Short	じゅんこ	菊池 郁夫	丹羽 崇史
grgr	Ruirui	ジョリートロリー	菊池 典子	池田 祐司
hide	sadako tani	すみちゃん	吉岡 晃	竹村 俊彦
himikami180614	sally	たつこ	吉田 奈津子	中村 かよ
Hiné	Shinnosuke Amaba	だま	九大襖貼り部の娘	中村 琢巳
Hiromi Shigeno	Shohei Saito	ちよるちよる	熊谷 真由美	中島 慎治
houyhnhnm	SK	つーじ	桑木 敏	仲川 邦広
Inu	sw	なかがわ あさこ	祁 秋夢	仲村 忠士
ipu	tak	なつみ	航空扶助保存会	朝廣 和夫
JUJU	Takaki Kazunari	ななし	降矢 哲男	長野村
Jun Yamamoto	Takeshi Okubo	のっち	佐藤 宣子	田尻 幸子
June	taketti	ヒマワリ	佐藤 琴	渡辺 芳郎
Junko Takaesu	tam	フォレスト	斎藤 彩世	土屋 加津彦
KasaTok	Taoyame	ふく	坂倉 真衣	嶋田 絵里
Kazuo Ogata	Toko Miyagi	ぷりん	坂田 賢治	藤井 美智子
KB	ttttee	まいこふ	阪上 宏樹	藤野 遥
Kenji Katsuragi	TY	まっちゃひろ	三井	南野 森
kg24	Vicky	マツミ シンノスケ	三島 久樹	日比野 友亮
kick!	y.furuta	まどか	山本 雅信	馬場 由行
kimi	Yu Muto	マナ	市原 猛志	箱崎 水族館
Kinsey	yuchunrd	まほろ	七蔵司 淳子	尾形 誠子
kiyo	Yukiko Kawamoto	まりゆりあ	若葉二四六	堀 賀貴
Koga Mie	yunoji	まるまる	秋山 晋司	毛利 美帆
kohno@kke.co.jp	あお	みずしろ	小太郎	木宮
kokeshi	あかね (K.A.)	みまる	小田部 龍彦	野中 雅彦
kokichikun	あかね (M.A.)	ムギさとかタイチャとか	松原 憲治	六角 友里
komomo	あひるん	もじゃ	新井 健一	ほか3名の方々
Ksisuke Satake	あらいぐま	やぶ	新井 竜治	
KUPRESS	イケ	やまどり	森 千恵	
limestone	うめさん	よっしー	森山 陽介	
M.H	うらら堂	ライム	真保 晶子	
Makiko Nishizawa	おかりん	ロクナンボウ	水藤 昌彦	
Mariko	オッキーナ	ろころころころ	杉並ねこ一家	のべ合計 245名

以上の皆様・機関に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



展示・講演会関係の活動状況

Activities of Exhibitions & Conferences

公開展示

- 「ありがとう箱崎キャンパス
— 学術遺産と学者たち — シリーズ 3
九州大学の鉱物鉱石 — 我が国の鉱山開発との関わり —
期間○平成30年12月1日(土)～平成31年3月29日(金)
場所○箱崎キャンパス旧工学部本館3階常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館
- 「本館丸ごと博物館 — 特別館内ツアー」
期間○平成30年12月1日(土)、2日(日)、8日(土)、9日(日)、
15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館
主催○九州大学総合研究博物館

テレビ出演

- NHK 教育テレビジョン
「サイエンス ZERO 公開収録! ふしぎだらけのアンモナイト
をマニアックに解説!」
(前田晴良教授)
平成31年1月13日(日)

ラジオ出演

- NHK ラジオ第一放送とNHK ワールド・ラジオ日本
「NHK ラジオ冬休み子ども科学電話相談」
(丸山宗利准教授)
平成30年12月27日(木)、28日(金)

講座・講演会等

- 国立科学博物館企画展 砂丘に眠る弥生人
— 山口県土井ヶ浜遺跡の半世紀 — 講演会
「人の移動と文化の変化 — 弥生時代開始期の場合 —」
(岩永省三教授)
平成31年1月20日(日)
場所○国立科学博物館 日本館2F講堂
主催○国立科学博物館

- 平成30年度「科学を語る会」第4回講演会
「宇宙からの便り～隕石が語る宇宙の歴史」
(中牟田義博専門研究員)
平成31年2月2日(土)
場所○九州大学西新プラザ
主催○科学を語る会

サテライト展示

- 福岡県の蝶 9
期間○平成28年3月17日(金)～継続中
場所○糸島市図書館二丈館

出張展示

- 「笹丘小ミュージアム」
地球と宇宙からの贈り物(化石)
期間○平成30年1月9日(火)～継続中
場所○福岡市立笹丘小学校

協力

- 日本アートマネージメント学会九州部会研究会
「五感で知る九州大学総合研究博物館 — バックヤードツアー
& SPレコードコンサート」
期間○平成30年11月18日(日)
場所○箱崎キャンパス保存地区旧工学部本館3階常設展示室
主催○日本アートマネージメント学会九州部会
協力○九州大学総合研究博物館、箱崎 SPレコード研究会
- 国立科学博物館企画展
「砂丘に眠る弥生人 — 山口県土井ヶ浜遺跡の半世紀 —」
期間○平成30年12月11日(火)～平成31年3月24日(日)
場所○国立科学博物館日本館1階企画展示室
主催○国立科学博物館
協力○土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、九州大学総合
研究博物館
- こどものためのワークショップ博覧会
「ワークショップコレクション in 福岡 2019」
期間○平成31年3月9日(土)・10日(日)
場所○九州大学伊都キャンパス(ビックオレンジ・センター
ゾーン2号館)
主催○NPO 法人 CANVAS / 株式会社グッデイ
共催○九州大学

博物館施設一般公開

- 九州大学箱崎キャンパス閉校企画
— ありがとう箱崎 — に伴う一般公開
期間○平成31年2月8日(金)～10日(日)
場所○工学部列品室、各開示室、会議室
主催○九州大学

人事往来

Personal Changes

着任・退職

平成30年11月30日付けで、
事務補佐員の松尾 和雅子が
退職しました。

平成31年1月1日付けで、
隈本 素子が事務補佐員として
着任しました。

その他の活動状況

Others

運営委員会

平成30年11月12日(書面)
平成31年1月9日

団体見学

平成30年6月30日(土) 九大女子卒業生の会・松の実会 15名
平成30年11月10日(土) 九大工学部機械工学科同窓会 20名
平成31年2月9日(土) 粕屋西小学校生徒 30名
平成31年2月9日(土) 九大工(機械)主催「生きものサロン」16名
平成31年2月9日(土) サイエンス・ツアー(アンモナイト)10名
平成31年2月10日(日) サイエンス・ツアー(アンモナイト)15名

催事予告

福岡ミュージアムウィーク 2019 に参加します! 特別展示「森本桂とゾウムシ学 — 九州大学が誇る東洋一のコレクション」4月15日(月)より(予定)

5月18日(土) ▶ 開学記念行事 — 博物館開示室一般公開 —
時間○10:00～16:00
場所○3階列品室、4階会議室、高辻吉鉱物標本室、動物骨格標本室

▶ 「地質の日」記念企画 — 前田晴良教授による解説「化石化のメカニズムを探る」—
時間○10:00～/11:30～/13:30～/15:00～(各回約30分)

5月19日(日) ▶ 博物館開示室一般公開
25日(土) 時間○10:00～16:00
26日(日) 場所○高辻吉鉱物標本室、動物骨格標本室

▶ 総合研究博物館では、『博物館活動充実基金』として皆様からのご寄付を受け付けています。

手続きの流れ

1. 当館 HP に掲載の寄附申込書(博物館活動充実基金用)にご記入ください。
2. 事前に博物館事務室までご連絡頂ければ、申込書記入内容の確認をいたします。
3. 寄附申込書原本を、博物館事務室までご郵送願います。
4. 入金依頼書をお送りいたしますので、同封の振込用紙により納入してください。
5. 入金確認後に、御礼状と「寄付金領収書」をお送りさせていただきます。寄付金領収書は税法上の優遇措置に必要ですので、確定申告まで保管して下さい。

※当基金への寄付金は、所得税、法人税、相続税、住民税(自治体により異なります)の優遇措置を受けることができます。

詳細は当館ホームページもご参照ください。

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>

九大博 充実基金



お問い合わせ先: 総合研究博物館事務室 / 電話 ● 092-642-4252 / メール ● office@museum.kyushu-u.ac.jp